

自己評価報告書

平成23年5月17日現在

機関番号：35308

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：平成2008年～2011年

課題番号：20402006

研究課題名(和文) フィンランドにおける不登校児支援：日本へのインプリケーション

研究課題名(英文) Social services for helping school those children with attendance problems in Finland: implications for Japan

研究代表者

高橋 睦子 (TAKAHASHI MUTSUKO)

吉備国際大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：50320437

研究分野：社会科学B

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：不登校、フィンランド、福祉政策

1. 研究計画の概要

本研究は、フィンランドの不登校児支援について現地調査を実施し、不登校問題の実態および不登校児支援の実情と課題について、日本での不登校の現状との対比を含め、福祉社会学と臨床心理学を主軸とし家族社会学と政治学を含む学際的なアプローチから考察・分析することを目的とする。現地調査のフィールドはフィンランドの基礎学校(日本の義務教育/小中学校に相当)であり、4年の研究期間で不登校の多様性と社会的な支援の取り組みを明らかにする。本研究の究極の目標は、不登校児支援について、既存の学校コミュニティの組織秩序にいかにも子どもを適応させるかという「大人社会の論理」だけではなく、むしろ、子どもたち一人ひとりの個性と資質をよりよく尊重しようとする「学習者第一主義」の視座から再考し、「子どものため社会」の構築のためにはどのような制度改革が必要であるかを探求することである。フィンランドでのフィールド調査から、不登校への早期介入の実践や不登校児とその家族へのよりよい支援のあり方を研究し、日本の不登校児支援の近未来にとって有用な提言を行う。

2. 研究の進捗状況

(1) フィンランドでの現地調査

これまでの継続的な海外調査を通じて、フィンランドでは、義務教育期間においては不登校として顕在化に至る事例そのものは少ないことを把握した。しかし、これは問題がないという意味ではなく、むしろ生徒の学習モチベーションの低下など不登校の潜在リスクが問題として教育・福祉関係者の間で認識していることが確認された。

(2) フィンランドの不登校児問題に関する文献研究

フィンランドの実情と課題について、福祉政策、スクールソーシャルワーク、教育政策(日本でいう特別支援に相当する施策)、学習権と意思表明権を含む子どもの権利および学習障害に関する文献を、代表者と連携者・メルヴィオが中心となって分析作業を続けている。

(3) フィンランドの不登校児問題に関する文献研究

日本の不登校児問題の状況と教育現場での課題と取り組み状況などについて、臨床心理士であり中学校などでカウンセリング臨床に従事している連携者・川中を中心として、最新の研究知見を体系的に精査している。

(4) 社会に向けての研究成果の発信

2008年7月6日には、「フィンランドの子育てと教育」研究シンポジウム(於:東京、渡辺久子博士(慶應義塾大学医学部講師)、藤井ニエメラみどりおよびPertti NIEMELAらとの協働)を通じて研究成果を発表した。(参加者約400名)

このほか、代表者は、各種の団体やグループの依頼に応じて、東京を含む各地でフィンランドの教育や福祉に関する講演を行っている。また、代表者と連携者は、論文や著作を中心として研究成果をより広く社会に向けて発信するように最善を尽くしている。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

フィンランドでの現地調査を含め本プロジェクトの研究活動は研究計画に沿って堅実に実施されており、現地での研究視察や海外共同研究者との連携にも問題は生じていない。このため、自己評価として、「おおむね順調に進展している」と判断する。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度では、両国の比較・対比から日本に有用なインプリケーションを引き出し提言として総括することで、研究をさらに推進する。具体的には、フィンランドでの現地調査から得られるデータや研究情報等の分析から結論を引き出す。フィンランドを中心としつつも可能な限りスウェーデンなど他の北欧をも視野に含め、専門家・研究者を招聘し国際シンポジウムを開催し日本における研究交流・社会への情報発信の推進に努める。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

高橋 睦子 「フィンランドのソーシャルワーカー」『社会福祉研究』第101号, 124-130頁, 2008年(査読無)

高橋 睦子 “Challenges in Nordic childcare policies: with special reference to Finland”, 『The Journal of Comparative Economic Studies』, Vol. 4, 41-55頁, 2008年(査読有)

片岡 佳美 「合意制家族と子どもの権利:フィンランドのエンパワーメント政策が示唆する論点」『同志社社会学研究』No.14, 47-53頁, 2010年(査読有)

高橋 睦子 「フィンランドの人権と福祉社会」『人権21・調査と研究』No. 206, 16-22頁, おかやま人権研究センター, 2010年(査読無)

高橋 睦子 「フィンランドの子育て」『教育と医学』(教育と医学の会(編)慶応義塾大学出版会) 2010.6, No. 684, 12-21頁, 2010年(査読無)

[学会発表] (計1件)

高橋 睦子 「子どもと家族のための福祉社会:フィンランドの子育てと保育, 家族支援からみえてくるもの」(報告発表)、研究シンポジウム『フィンランドの子育て・保育と家族支援』(2008年7月6日, 江戸東京博物館ホール, 全国私立保育園連盟等共催, 特別講演:渡辺久子, 司会:汐見稔幸)

[図書] (計4件)

高橋 睦子 『世界の幼児教育・保育改革と学力』(共著:編者・泉千勢, 一見真理子, 汐見稔幸), 担当章「保育・幼児教育・学校の連携:子どもの健康と幸福のために」46-68頁, 明石書店, 2008年(査読無)

高橋 睦子 『子どもと家族にやさしい社会・フィ

ンランドー未来へのいのちを育む』(共編著者:渡辺久子, トゥーラ・タンミネン), 2009年(査読無)

高橋 睦子 『世界の社会福祉年鑑 2009』(共著, 荻原康生・松村祥子・宇佐見耕一・後藤玲子編著), 担当章「フィンランド」63-91頁, 旬報社, 2009年(査読無)

高橋 睦子 (監訳)『フィンランド中学校現代社会教科書-15歳, 市民社会へのたびだち』明石書店, 2010年

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
該当なし